

特集を組むに当たり、たくさんの人から話を聞きました。作る人、売る人、飲む人、生かす人、外の人…。さまざまな意見がありました。情熱を傾ける声や心配する声、中には無関心な声もありました。

現在、日本茶・川根茶が抱える問題は、多岐にわたっています。さまざまな要因がからみ合い、出口を見つけるのは簡単ではありません。でも、こんな苦しい時代であっても、川根茶を守り伝えていこうと踏ん張っている人がたくさんいることも知りました。

そう、川根茶の歴史はそんな作る人たちの誇りによって築き上げられてきたのです。品質にこだわり続ける情熱が、今日の川根茶を支えているのです。

これからこの町の未来を創造していくためには、今、この町に暮らす一人一人が川根茶を見つめ直すことが必要なのではないでしょうか。この町のみんなが、川根茶を誇りに思い、川根茶を愛することが必要ではないでしょうか。

現在、川根茶の新しい可能性を探っている人たちがいます。お茶をさまざまな分野で活用しようという動きが出始めています。一つ一つの取り組みは小さくても、それらが集まれば、きっと大きな力となって川根茶を支えることにつながります。川根茶産地という、作って売るだけの町から脱皮して、新しい「川根茶を生かしたまち」づくりへ。そんな考えを皆さんに投げかけたいと思い、本特集を手がけました。

今こそ、生産者、流通業者、販売者のみならず、行政や商工会や観光業者、そしてわたしたち一人一人が、「この町には誇れるものがあるんだ」ということを自覚する時です。川根茶との新しい関わり方を考える時です。

この町に暮らすわたしたちが、川根茶の未来を切り開いていくのですからー。



取材を終えたある日。地名の藤原さんのお宅を訪ねた時、近所の萩内まりなちゃんとあさちゃんが遊びに来ていました。「写真を撮らせて」とお願いすると、笑顔で応じてくれました。楽しそうな会話が続く中、夢中でシャッターを切りました。
お茶が紡いでくれる「人の和」を実感しながらー。